

◎而して滿洲人及び北清人元來水

今日の水田轉讓辦法を以て一覽
に解人移住の妨害を爲すものなり
① 移住者からなるなり
② 本國法を見るに水田にして
の好適地を選定、水稻耕種の利益を
動議し官より種子の給與獎勵津貼
の手續を定め、價目規定、備付金
の手續等を制定發布せりものなり
③ 猶夫公署が諸水田耕種令を頒布
せる一節は我國にながれる米價騰
貴及び滿洲に於ける常用の盛んに
して耕作の利益を蒙るの感に因
りて大なるを知り勸奨に資を
爲すものなり

以上三條の水田轉讓の意圖華人
の移住を妨ぐるものに非ざる事明
かなり其土地耕種權の移動の如
き其の時に應じて個々別に處分さ
るべきものと云ふ人は華人居民が
此の邊に環念なく滿洲に移
徙し以て自らの生活を豊かにし且
つ在滿州邦人の爲め米價を豊富にせ
しむるものなり

を自己の手に引受くべく提議せり

**●物價騰貴を
小學校の兒童**

南半島兒童會館小學校校長、
近來の物價騰貴が小學校兒童に及ぼす影響は甚だしく、是今の處方として、購買方面より、節約的方面に多岐にわたる問題なるを以て只

那商人の賣出に來るもの漸く

現狀なり是れは畢竟するに時局に伴なり多數各國人の入り込みたるこ同地在庫品の減少と露口大連よりする輸送の困難の結果なるべし要するに今安東地方に於ける苦戦はトラスト側は朝鮮東亞の故にあらざるも其の勢力や牢乎として振くべからざるものある事實

受ける影響としては多少學用
の使用上に變化を來してゐる様

同前罷業側の氣勢幾分か鈍つて二三日前より形々復業して来る者頗る増へて來たが併し中心分子の原思よ來たにまだ素直に引いた勢力である戦後の勵めも頑として間かち掛つて戦後の復業を略せぬやうに努めてゐる。有様で東京鐵道會社は

たりの豊に供給してゐる様であ
たり云

將軍は兩方から陥穽ひになつて四
苦八苦の苦處に陥つてゐる處であ
る併し何等か恃む所がある如く爰
に二三日待たるべしと軍隊側を仰
へてゐるこの事である多分將軍の
胸中には安穩の光明を認めたから
であらう早下駄の一の問題は

職業同盟會の公認

食たが滅して、目的を安んずる
む様にしてゐる様にも見ゆる
はほんの一部分に過ぎない様で
のである
の際、郭

公認を追つた所が支部側に対する關係上、右から左に承認する譯には行かぬとして、東路鐵道

勞働者の殆ど全部

を網羅して居る體に容易ならざる勢力を有する同會の復活を許すや如何は情状を將來に於て顧みれば鐵道側の決して承認すべき事であるを非軍人の胸中騒がしむ所は

勢めつゝある結果其の成績は
優秀なり安東縣販賣所の區域
奉線は單河口以南鴨綠江の上
比、興京、帽兒山、長白縣一
の供給を保持す

平安道運送費簡に於ける運轉製造者は十五にして此の物に於ける運送費は二百九十八圓なるが其製造額二萬六千枚なり

管理權

帶にてパイレットの銑抗品とするにスビヤを以てしてつゝあり口付は主として日本人向して朝日獨占の勢力を占め朝日人向しては南朝のウエル最高も有るなり同所一箇月の販賣量は約三萬圓なるが近頃南朝の東地長春ハルビン等より支那人の蓄意出しに在るもの漸く盛なる

の設立
 米穀
 簡なる
 する自
 せる折
 なり荷
 の德越
 作樹の
 盛なる

助盛人に行はれ金園業者の
の如きも資金需要の最盛季
せん許りの繁栄を極めたり

業後聞
 等か待む所あり
 も那邊にあるか
 事は出来ないが龍業
 に入るも大急病無事資金の
 喚起すべく努めた大なる撤退
 ここ無かるべしと思はる
 登山に斯
 たワレは
 旅歴四十
 行ふここ
 一同を待
 姫室
 金

たソレは釜山警察署に於て管内の
娼妓四十餘名に對して健康檢斷を
了ふ。三二なり未重敏の宅に

も那邊にあるか
る事は出来ないが而も罷業
ない連中を纏り集めて不
知の列車の運轉を繼留し居
ても何分敵氣を吹き込んで居
るから右現象に徴して本
解決期も近き將來なりと見
なからう(衆云)

一同を駕
娼店
を行ふ事
騒ぎ出し
騒ぎをし
うく年々
される事
蔵の

星 ほし

[illegible]

地球に近いものは月であるが出来る
距離は時によつては多少の◎其の風

取は曉の明星になつてゐる
 ののがツレは何れも同であ
 り、
 今寧ろに二時三十分過ぎ
 車で月の奥へ行くと後園
 になるまでは五時半を要す
 ことになる星はたゞより微暗い
 内一瞥では星は金星である
 のの明星の明星
 遊に度々近づく
 ほどはかしくなる
 緯と面影が遠く
 将星を見る
 つらくなる
 大古の聲
 眼見者

れて来たのに來れば娼妓同様に香を受けたといふので

後一切客席へ用ぬとの決議を
 ののであります。何しろ餘り賣の
 粉糞です。から此のまゝは何う
 粉糞だらう。金山の花柳界では大
 成を起して居ります(金山)

悪い流行で

半壞の人は迷惑する

自衛軍の隊長(吉田)

あり目一犯人隠探中なり(平壤)

農信

豊作(平南の大豆)

南に於ける本年大豆收穫は理想高
二十四萬六千四百四十五石とい
ふ。前年の實收高十二万七千三百
五十石と比し一萬九千六百六十石即
十八パーセント増收を實現する居
る。

豐作(平南の大豆)
 閏に於ける本年大豆收穫豫想高
 十四萬六千四百四十五石にし

前年の實收高二十二萬七千三百五十五石に比し一萬九千六百八十三圓八毛の増收を見込み居るが本年は一般播種後降雨無からず一昨年生育盛んなをせしめ六月中旬以來降雨雨を來月迄に六月中旬以來降雨雨を來月迄に氣候適順なりし爲り青作佳し收穫つて前年の增收を豫想し得に至りたるが大正二年後既に五

前より比較するも本年の如き増
を見込なること稀なりと云へり

所を變更してゐる。
 ◎常牛と車とは準備が出来てゐるので引越がなさに於ては既に簡單なものだ。天幕と家財を車につけ、家族も之に同乗して牛に曳かせて意のままに引越すのである。

のもので
 のの作り
 が深いので
 地の人々は音楽の趣味
 畫は羊を

追ひ牛を見せなして
 雲を染み糾ひ 露を
 傾て生の上に 家
 又は胡弓の微なも
 のを奏て 或は能く
 の様なを 奏して 瘧
 の様なを 奏して 瘧
 びつゝ 樂有は
 實に何さ云ふ ぬ 恩に
 打たれら ち(重宝同)

弦齋先生
命名實驗證明
東京市澁谷中谷町
實元尾崎兄弟商會
◎全國各藥店にあり◎

胃腸を損ね病氣にかゝり易き秋口は

食事の後には有名なタカチアス
ターゼを主薬とせるゴルフを服用
して胃腸を強健にするが何よりも

安全第一

定価(貳拾錢)五拾錢
(並園發賣)(箱) 卅

膀胱丸
九炎八腎
急生淋病
入鹽八拾
入九拾七
入六拾

新日本
募集規定要項

株ノ現在主ニ拾貳萬株ヲ割當シ殘數貳萬株ノ内株ハ左ノ方法ニ依リ公募ス

募集規定要項

集株數 壹萬貳千株
集金額 金六拾萬圓

込價格 額面以上(額面超過金額ニ加付
以下に超過金額を納付する事)

込株數 拾株以上

込證據金 一株 金貳圓五拾錢(第一回拂込金ニ併算ス)
二株 金貳圓五拾錢

込期間 大正七年九月拾日ヨリ同月貳拾五日迄
(但郵附ニ依リ申込ニ付テ先ツ切付
内ニ到達スル事要ス)

額面超過金額ノ多キモノヨリ順次大勢ノ最低額ノ申込方繰上積込セラルベシ
超過額ハ概シテ比例ニヨリ募集株數ヲ決定スルベシトス

入決定方法

二回拂込金額
二回株金拂込期日

込手續 當社所定ノ株式申込書及印鑑ノ俱
申込證據金及額面超過金ヲ
添テ當社本店ニ申込ムベシ事

申込用紙ハ當社本社店ニ配レ御請求被下度候

大正七年拾月貳拾日迄

日本海上保險株式會社

大阪市西區五戶堀南通貳丁目四拾四番屋敷

[illegible]

京城日報
南北協和如何

り國家人を以て念さするもの
(若し之のありませば)に至りては、
四圍の狀況、最早一日も忍ぶべか
ものなるべく、之に對して南方
從來の如く偏屈なる法律論や、

[illegible]

文祿役の發端に就て

田中文學博士講演

なるべき有様なるを要するに其
 が政治家、捕鯨家の間に排他精神
 の全無く、勢力の衝突あり、利害
 の多き、野心的衝突あり、國家
 人民を以て一個人を以て二朋
 黨を以て、其私利私慾を達するの道
 路に於て、其其しして取組み、由らばあり
 故に今日現狀に結び解けるに
 非ざるの如き、微蹙にいはし
 れば、双方に其れ相違の理由
 あり、其れを以て、
 平等兄弟關係なり、狗も豈は
 天狗の如きなり、而も一方の勢
 に於て、他の力を制するの勢
 に於て、己が意を服従せしむるを

左の一編は朝日東京高等女學
 生に於いて、朝日新聞記者の
 編輯新聞社並に本社主筆の講義
 に於いて東大文科大教授安田
 博士中、實成氏の試られし講義
 の要領なり

程はこれから文藝後の鑑識といふ
 ことと就て一冊の意見を述べて
 見ようと思ふ、併し處中の事故何
 等陳腐なもので無く只鑑識に依つて
 語をすとのだから誤りの點がある
 かと知れぬ、此點は斷つて置く

此文藝後何時か起つたか
 といふ、御承知の通り天正十五年
 豊臣秀吉九州征伐を致すに當り

所出此處所を同復したに依る
 の如く好景を修めたりといは
 する云々意味である。所が
 五年には義朝云ふ將軍は無
 其時の朝經國王は御承知の通
 昭、大將の將軍は實際は義昭
 で、夫を義朝と書いた誤は
 此の昭の字が朝經國王の名前
 によく似て居るから之を避け
 意と違へて書いたものではあ
 りかと思ふ、斯う云ふ例は此
 中に幾ば見附け見つけ
 ば此將義朝なる者が使者を
 た元龜元年は昭も攝田信長が
 義昭を擁立して京都を同復し

時局と國民思想 (十二)

田榮吉氏談(其一)

を奪回するに止り、南方の根據地たる兩廣等處には、一指を染むる能はず。又南方に在りても、非南蠻會合を招きし政治機關なる阿爾及爾が影響の面目を以て、交通閉塞の目をして列國に承服せらるるすら、實際當々難く至るべき狀況に在る。かく何時までも通達するも斷絶のつゝ見込はなからざる所は徒らに国力を消耗するのみ。

支那の紛争は、其の當事者の間に於けるに多少の意味あり、而も一體國民は全く受動なり、而も迷惑干渉民にも毎に其の側面を喰はさるべからず。是れ眞に堪へばならざる苦痛なるべし。時に東心誠意よ

家に朝鮮並海日記云ふものがあるが、是は天正五年に室利云ふ人が書いたもので、其の興味ある尤も此日記は餘程珍貴な六ヶ敷の考證を遂げた者未だ無いが私の考へでは此後細田信長から讀つた使者と思れるのである。此日記中に京都の將軍家が去ぬる中、後再び使者遣はした、此役は三度目である、云ふことになつて居る。然して最初朝鮮へ使者を送つたのは將軍の世間の文藝を喜ぶために、次に之に依る、密教を講じては海外の麒麟の爲め暫く都を遷じて邊土に統治して居つた。

今同様の關係は之れか原因とする。元來西歐の結果としては違ひが要は一般に物置臺灣が生ずるに際された結果で斯の如くやがて國寶すれば今後何時でも斯の時勢が起らぬを慮す。これだけの根本的解決を施すことは或は物價を安くする方法なども差支ない程度に收入する上からは二策を講ずるの外資、これは何れにしても經濟上の問題であるが今回の騷擾は全般的に國際情勢の搖らしに起因するのである、乃ち貧者の富める家の家業が驟間に行つた、斯の傾向は極端に行つた、漸次主權となり終には

並行線

1

[illegible][illegible]

嗚呼刀劍之東顧之北、山光水色明
修國、老來只信事邊遊、才識良鄉不
修國、
學問、何句從胸裏流出、朴茂深
醇、所求不取巧而盡出、
吾人問鄉軍 兄玉九卓
四圍皆登山、水、皆有意、世上、
知、老饕一櫛我難美、千難難得
十字詩、
學問曰、實事寡錄、非徒作
吾人問鄉軍 茂泉涵堂
北都門百里、臺、臨水、作、
御時、如有等、池、松島、頭、
迎、
學問曰、薄產簡樸無一點粉華
之氣、
吾人問鄉軍 大石松遠
直取東坡詩、一雙青鸞是故
山、山紫水明、能引客、航人、恒、
凌、
學問曰、總是紅寶、絕無虛構
之氣、

されれば澤山だ、解でも男も
無いさ云ふからにや、さうせお
も腹さすつもりだらう。さうなり
や此方も意地だ、やる所迄やつて
見せる。」
「さうでせうが、父も強引悪氣で
申したでも御座いますまいし……
」誠實に當生時はりをされてた
まるもんか——こんな家になるか
ろそんな事を云はれるのだ、澤山
の房から出て行つてやうらう。さう
した。
「畏服」
「やかいまい。」
高山はアイそ其儘出て行、
した。靜子の臉からは堪をうつ
たやうに涙が溢れて出た。高山を
追ふ力も無かつた。世界が眞時に

顔が現はれて消れた。
靜子は手帳を出した。そして其
の手帳を一つ一つ讀んむつた。
微笑が顔に上つたと思ふに過ぎ
て行つた。
其手帳を一本にして庭に下りた。
そしてそれに香油を注いだ。春
桜らしい匂ひが立つつと鼻を
握つた。火は油に移つてさう燃
えた。石滑のやうな靜子の顔が赤
味つた。靜子は鼻もも其の鼻の
の服を見入つた。火は次第、對
をまして、やがて白くなつた灰
をばして、
夜風が四方へ散らした。
仰向く空には深い闇の底から
が青白い光りを投げてゐた。
靜子は庭から上つて、總ての
の戸を閉めた。そして高山

民思想(十二)

芟除せよ

田榮吉氏談(其一)

に懲累を及ぼすことにならぬことを眼へる。故爲政者は善事を未雨綢繆し又之れを能く棄れることに努めなければならぬ、又此の腐敗は一面から見れば單に悪いこのまゝは言われぬ乃ち下層民の目覚が人生の結果として社會上於ける價値の改善を爲すの機を作つたといふことも得る、然れば「等の」陳向に對して力を以て壓迫することするものは不可能である、さうして之を善導しなければならぬ又腐敗のもとは惡いには違ひない然し社會の進歩を促す方面の勵衝を見れば強ちこれは善識したり裁断たりするのは間違つたらんされば善政をおいて之れを繼行するのが第一の良策である、然れば善政とはい何なる意味の事であらう、彼の古い言葉に於ける臨任人道といふやうなことでは不可ぬ須らく新しい潮流に適應する思想を以て驅逐しなければならない、單に政治の力でありさへすも、好いことでも過つたと大膽に進んで、積漸的方法を以て先づ全監に於て局方を斷じなければならぬ、舊弊的療法は被服永久的の根治法でない、然らば此の全體を善くするといふのは當面の問題としては通貨を收縮するといふことにある、此の通貨收縮である、然かも物質調節の根本政策である、然し世の一部論者は通貨を收縮するといふことが如何の理由で害を生ずるか國土富の發展を阻害するに至るものなりと斷斷するものであるがこれと思はずとも猶ほしいものである、今日の如く物物が騰貴して居る場合に於ては却つて輸出の出來れなくなるものなることを知らなければならない(東京經濟學會)

腰身用の短袴を取出した。
鼠がガク／＼天来で馳つけた。
突然一匹の鋭い雄雞が鳴つた。
前庭は閉ざられた室内に集めた
其塊が上へ／＼行く鼠の姿に見えた、獅子は優雅になつて動なかつた。

室内は復讐になつた。

豆府を鑑定する法
豆腐の製造方法は多種多様な位であるが腐敗の時間牛乳と同様で一度その腐敗の點をすぎると牛乳の代りたる食品としての性質を失ふから、豆腐店に買ひ寄る位では、豆腐店定規のうちに豆腐を用ひる位である、豆腐の味を見るに、鼻で嗅いで見てもよく、口に含み少し咀嚼して居るのは先づかき、舌で舐めて見れば、水分が多い又は少くないかは、表面がカサツキか滑らかであるかに、味は硬いか軟かいかに、色は白いか黄褐色のか、臭いは香りがよいのか、酸臭があるのか、保存方法は、包み紙だけ立派にして置くか、布巾をかぶせて置くか、瓶に入れて置くか、瓶の中の水は少な過ぎぬ(日本経済叢書)

飛行少年

◆壹千餘年前の空中飛行(由蘇門答臘)
 ◆武器を捨てて鐵條網を曳(少將)
 ◆面一新
 ◆十月號出

小松生首奇萊
 小松雲井龍雄
 秋風の曲
 錢田平重昭編
 定價一錢(日本流通貨幣)
 郵稅二錢(日本流通貨幣)

[illegible]

大西鐵工所

各種 丸角替駒
各種 ツブ
各種 ドリール用ソケット
各種 パイプ方ツタ替駒
各種 イギリススツパナ
各種 ハンマー
各種 ボール各種

大阪市東區空堀通一丁目
電話 南六二七〇三番
振込 二二七〇三番

合名 會社

[illegible]

を惜まよ泣き出たのである。お前の無理を聞いては、流石に目も涙の無い程だが、彼には徳姫御居川宮の利益が叫び響く事だ。さうして、三郎が憎い云ふ事の外何ともないのであるから、一時の素直や言間の華美心の爲めに娘の心を分を立て通せる事は總計出来ぬ事を立てて居た。腹では多少難子と同情すべき點があるさう感じているながら断つて同情らしい気遣へも見せない。

「難子さん、お前はまだ彼でなくしのかんに未練があればこそ、妻の云ふ事に慥を突いた上、腹を立て泣き出してはおるな。お前の舅の叱責者としての責任を持つて、水筒一杯飲ませりにお前を苦しめたの外、小一十分慰めを承けたりしたらず、嬉々然と賞んで来たんぞ。」「機嫌よく云ふ節

なから出て行つたのである。禮子は、もうそれを呼び止らうとする氣配さへもなかつた。少時ほざきの元氣さへもなかつた。姉妹の後衛女は、はみり落つる襦袢を片手に持ちもやらずに起き直つて、矢張りぐり／＼自分の片袖を噛み咬んでゐたのである。

「聞取さま、妻は貴女の娘に逢ふなりません。貴女をお親になりこそ、おかしくならうござんす。」「貴女の御意かも知れませんが、義に正直結婚を爲さばこそ、そそりや貴女世界に例のない御難子云々もんです。貴女は義の御意今日の旦那様と結する時に、何

なから出て行つたのである。禮子は、もうそれを呼び止らうとする氣配さへもなかつた。少時ほざきの元氣さへもなかつた。姉妹の後衛女は、はみり落つる襦袢を片手に持ちもやらずに起き直つて、矢張りぐり／＼自分の片袖を噛み咬んでゐたのである。

「聞取さま、妻は貴女の娘に逢ふなりません。貴女をお親になりこそ、おかしくならうござんす。」「貴女の御意かも知れませんが、義に正直結婚を爲さばこそ、そそりや貴女世界に例のない御難子云々もんです。貴女は義の御意今日の旦那様と結する時に、何

月夜はしらぬの庭まきててさう
 がさらさら吹く鹿の蛸鳴きよ
 — 九月十七日 —
 ますい、處で問合にはこんな
 興へるかに云ふ事をよく母親

ありませんが、（西）西田さんいふ者があ
るから（編輯小僧）

100

[illegible]

三十一

眞佐丸
蓋山港埋立新町
本組取扱店
日午後
大池

時出
溜部
京都南大門驛
松原
電話二一
各客其他港地に荷客反扱店あり